

Green Community Newsletter



低炭素型まちづくり先進地域欧州にて
当社社員が調査した現地情報を配信中！

フライブルクのエコタウン

～ 新規開発地区と既存住宅地の再開発 ～

本メルマガでは、ドイツの環境先進都市フライブルク市のエコタウンを2地区紹介する。

◇ヴォーバン地区

ヴォーバン地区といえば、知る人ぞ知る有名な環境先進地区である。住民参加によるまちづくりが進められていると聞くが、実際に参加した市民は、医者、弁護士、建築家をはじめとした知識層で活発な議論をした結果のまちづくりであり、フォーラムヴォーバンというNPO設立で市民団体が緑の党へうまくアプローチできたことも成功のきっかけとなっている。また、冷戦が終わってフランス領の土地が開放されたことや、時代のうねりの中で市民活動が活発になった時期であったことなど当事の様々な背景も影響しているようである。

当地区は、市中心部から約3kmの立地にある新興住宅地(38ha)であり、計画策定に2年、開発工事が10年以上続き、現在も一部で工事中である。地区内には、2,200世帯、5,500人が居住しており、環境政策において独自の詳細な基準が設けられている。その結果、従来型の新興住宅地と比較して、CO2排出量を70%削減できる地区となっている。



ヴォーバン地区

<環境政策としての詳細な基準>

①屋上緑化

傾斜10°以下の屋根には、ソーラーパネルを設置する以外は、必ず緑化をしなければならない。これは、エクステンシブと言われるもので、人が立ち入らない、すなわちメンテナンスをほとんどしないものである。コストがかからず、メンテナンスも不要で、雨水浸透問題や

ヒートアイランド現象を緩和させることに貢献できる。



エクステンシブ(屋上緑化)

②車両の通行規制と人口密度

当地区の特徴的な政策として、車両の通行規制がある。車が住宅地内を通り抜けすることができない構造となっており、地区の外側に共同駐車場を設置している。地区の中央にはトラムが走っており、家からは駐車場(2箇所)よりトラムの停留所(3箇所)へ行く方が近くなるように設計されている。これは、環境への配慮というより、地区の人口密度を高めるために、車を置くスペース、車を走らすスペースを削減して、一定の土地内に住居を密集させて生活をさせるためである。住居を密集させるといっても、日本の都市のイメージとは全く異なり、これで人口密度が高いのかと首を傾げたいような土地の広い使い方だ。



まちの中心を走るトラム

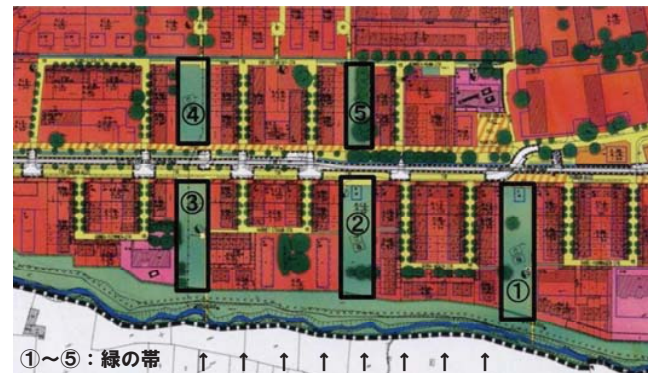


駐車場の権利を持っている、実際には車を所有していない状況

●: 路面電車の停留所

③風の道・緑の回廊

集合住宅が細長いいため、その間にある公園も細長いのだが、これには理由がある。空気の流れ替えができるように風の道を意識して全体が設計されているのである。シェーンベルク山からの吹き降ろしがあり、これを効果的に取り入れるために、集合住宅を長細くして、その間を風が通り抜けるようにしている。



①～⑤: 緑の帯

シェーンベルク山からの吹き降ろし

◇リーゼルフェルト地区

当地区は、行政主導によってつくられた環境まちづくり地区である。72haの土地に11,000人が居住しており、人口密度は東京都とほぼ同じである。ヴォーバン地区との違いは、車の乗り入れを可能にした(せざるを得なかった)ことである。車のスペースを確保する代わりに、集合住宅の高さを平均5、6階にしている(ヴォーバン地区の集合住宅は、平均4階)。



リーゼルフェルト地区

碁盤の目のように道路が張り巡らされており、ある意味違和感がない。車の問題以外は、新規開発地区同様に、地域熱暖房やゴミ処理等、環境に配慮したまちづくりがなされている。



小学校体育館の屋上緑化

国際航業株式会社

<http://www.kkc.co.jp>

gcn@kk-grp.jp

【コラム：レポーターが現地で聞いたこと】

①環境に対する意識

・市民協会の活動や伝統、そして地域に触れ親しむといった世代を超えた社会を築く活動というか普遍性が市民を支える根底にある。

・実際は、市民のすべてが参加してまちづくりを進めているわけではない。ドイツの大学数は約60あるが、日本のように6割の人が大学を卒業するような社会にはなっていない。ドイツでは大学を卒業した約15%の知識層が社会に散らばり、何かをしようとするときには自分の時間をあるときは犠牲にして、世の中をよくするための活動をして世論を動かし、社会をつくっているといったイメージが現実である。誤解を恐れずに言うと、その他の85%は環境に興味を持っているわけでもなく、例えばサッカーとビールを楽しんでいるような国民性だ。しかし、民主主義が成熟しているドイツでは、選挙で自分の主張する政党があつて、それに投票できるところが日本とは異なる。

②環境先進国の実際

・郊外のベットタウンには、マイカー通勤するような戸建て住宅がたくさんあり、まちがさびれているところもある。ルール工業地帯では重工業化の低迷とともに中心地の地価が下落し、郊外には高所得者がマイカーと広い土地を持って住んでいるという状況もある。

③教育、社会

・市民の意識の低さとか行政の怠慢ということではなく、議論ができる能力をお互いに持っていることが重要だ。これは間違っている、いや正しい、また、単に反対だけでなく、こういうのを計画したからこれはどうだとかが必要で、非難だけ、知識がないだけでフタをするというのもよくない。正しい議論をする、本質を見分けることができる能力を備えていることが何より重要だ。

本資料は、弊社レポーターが現地をフライブルク市在住の村上敦氏に案内していただいた内容をもとに作成したものである(視察:2010年11月)。

発行:株式会社インフラ・イノベーション研究所

Copyright reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます